

平成25年度6月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成25年6月7日（金）午後1時30分～午後1時55分

場所 市役所2階第1委員会室

出席 市政記者クラブ11社

会見内容

1. 話題提供（3項目）

1 ラムサール条約釧路会議20周年記念事業について

- ちょうど、今から20年前の平成5年（1993年）6月、アジア地域で初となるラムサール条約締約国会議が釧路市で開催されました。

会議は6月9日から16日までの8日間行われ、世界95カ国、国内も含めすと1,200人を超える方が参加されました。

- 当時、多くの市民の方がボランティアとして、通訳や観光のガイド、高校生などによる会議参加国の国旗掲揚、日本文化の紹介などを行い、この国際会議をサポートされました。ボランティアに参加いただいた方は、のべ人数で4,000人を超えました。

こうした市民の皆さんの温かいおもてなしは、国内外の関係者から高い評価をいただき、国際会議を支えた釧路の高い市民力に改めて誇りを感じます。

また、この会議を通じ、市民の皆さんに、ラムサール条約や湿地保全に関する意識が広がり、今日の環境・交流都市を目指す釧路のまちづくりへとつながっていると思います。

- 市では、今年度、ラムサール条約釧路会議20周年を記念し、当時の釧路会議に関わった方を交え、過去20年間にわたる湿地保全の取り組みを振り返り、改めて、湿原と住民の関わりについて考える事業を行います。

日程は、7月6日（土）・7日（日）の2日間で、会場は20年前と同じ釧路市観光国際交流センターです。

主なイベントとして、7月6日は、「トークアンドトーク」として、会議の議長を務められたラリー・メイソン氏や、条約事務局長のダニエル・ネイビッド氏らをお迎えして、「釧路で開催されたラムサール会議は世界中からどのように評価されたか」をお話していただきます。

7日は、市内はじめ地域の子どもたちと日本各地の子どもたちが、ラムサール条約や湿原を守る方法について話し合う「こどもラムサール会議」を開催します。この他、湿地保全の取り組みなどの紹介も予定しております。

2 姉妹都市（鳥取市・湯沢市）50周年記念事業について

- 今年度は、鳥取県鳥取市と秋田県湯沢市との姉妹都市提携50周年の節目を迎えます。記念式典は10月5日（土）に市民文化会館で開催する予定です。
- 市では50周年を盛り上げるためにさまざまなイベントを企画しておりますが、50周年記念事業は、これまでの50年の足跡を踏まえ、これからの1世紀に向けて、ということで次世代につないでいくことを大きなテーマとしており、多くの子どもたちに参加いただけるように工夫を凝らしてまいりたいと思っています。
まずは、両市の特産品を使った親子料理教室です。6月8日（土）午前9時30分からまなぼっと幣舞6階クッキングスタジオにおいて、鳥取市の特産品らっきょうを使ったらっきょう漬けとらっきょうカツを作ります。
また、湯沢市のサクランボを利用したさくらんぼジャム作りが、7月7日（日）午前9時からまなぼっと幣舞で開催されます。
- 次に、市内小中学校の給食に、湯沢市のさくらんぼ、鳥取市のらっきょうを使ったメニューをそれぞれ提供し、姉妹都市の産業について学んでもらおうと企画しております。湯沢市の日を7月9日（釧路地域の小学校）、10日（釧路地域の中学校・阿寒・音別地域の小中学校）、鳥取市の日を10月として、各校へそれぞれ提供する予定となっております。
- そのほか交流物産展やマンガ、短歌を中心とした文化展示事業なども予定しています。一部日程が未定な事業もありますが、それら事業につきましては、詳細が決まり次第、随時情報提供させていただきます。
- 最後に、姉妹都市への市民訪問団の訪問日程と参加者募集のお知らせです。
湯沢市へは、9月24日から27日までの3泊4日で、26日夜には湯沢市主催のレセプションに参加いただくほか、近郊の観光も含めての日程となる予定です。
また、鳥取市へは10月17日から20日までの3泊4日で、観光交流都市の岡山市を合わせて訪問し、17日は岡山市主催のレセプションに、翌18日は鳥取市主催のレセプションに参加いただき、岡山・鳥取の観光も含めての日程を予定しております。
今後、釧路市姉妹都市提携50周年記念事業実行委員会が契約する旅行会社から市民訪問団の募集がありますので、多くの市民の方の参加を期待しています。

3 北海道日本ハムファイターズ応援観戦ツアー募集について

- 平成15年に北海道日本ハムファイターズが誕生してから、今年で10年を迎えたことを受け、まちづくりや地域おこしなどの応援を目的として、飯山選手と杉谷選手の2名が釧路市応援大使に任命されております。

今年1月のくしろ20歳のつどいには、同選手からビデオメッセージを頂いた他、4月21日の試合では、釧路市の特産物をMVP選手へヒーロー賞として贈呈し、場内スクリーンで大きく特産物が紹介される企画もありました。今後、6月30日と9月11日にも同様の企画が行われる予定となっております。

更に7月12日から15日までの4日間、札幌ドームで開催されるWe LOVE北海道シリーズ2013にあわせて、同球場でグルメイベント・第4回なまらうまいっしょグランプリが行われ、このイベントにくしろザンギ推進協議会の出店が決定しました。昨年は見事グランプリを獲得しておりますので、釧路発祥のザンギをしっかりとPRしてほしいと期待しています。

- さて、この度、北海道日本ハムファイターズより、8月11日（日）午後1時から、札幌ドームで開催される千葉ロッテマリーンズとの試合に、釧路市民50組100名を招待する案内がありました。

市としましては、夏休みの期間でもあり、次世代の子どもにさまざまな経験を積んでほしいことや親子のきずなをしっかりと築いてほしいことなどから、対象は小学生のお子さんとお親の親子ペアに限定したいと考えております。

応募方法などの詳細につきましては、広報くしろ7月号や市ホームページなどを通じてお知らせする予定です。夏休みの楽しい思い出を作してほしいと願っておりますので、ご応募いただければと思います。

なお、往復のバス代、チケット代、昼食代は球団側の負担となっております。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ ラムサール条約釧路会議20周年記念事業の中に、山形弁で語り継ぐ民話「夕鶴」というイベントがありますが、山形弁、あるいは夕鶴とラムサール条約とは結び付かないように感じますが、こういった趣旨で企画されたのでしょうか。

(湿地保全主幹)

- ・ かつてタンチョウが絶滅したと思われていた時に、数羽いたのが発見された場所が釧路湿原内の宮島岬という場所でした。湿原とタンチョウは切っても切れない関係にあります。また、最近では道東地域でしか多くのタンチョウを見ることはできませんが、かつては山形県も含めて本州中部まで生息していたという記録があります。昔話は本州で鶴を見た人が伝承してきたといこととございます。実は山形市内

に夕鶴の里というテーマパークがありまして、そこで山形弁を使った昔話を紹介しています。タンチョウの分散化も話題になっている時期でもあり、山形弁を聞いていただきたいということでお呼びしています。

(質問)

- ・ 日本ハムファイターズの応援大使ですが、これは179市町村すべてに対して順番で応援大使になるということなのでしょうか。

(観光振興室)

- ・ 全道179市町村のそれぞれに10年をかけて応援大使を置くという制度で、昨年度、釧路市が希望したところ、初年度から応援大使として就任いただきました。今年度、応援大使が就任した18市町村すべてで観戦ツアーを実施する予定です。18市町村は、応募市町村の中から球団の抽選で選出されました。実際にいくつの市町村が応募したのかについては把握していません。

(質問)

- ・ 今回のラムサール+20において、こどもラムサール会議をやることによってどのような成果を期待しているのか、お聞かせください。

(市長)

- ・ 今までたくさんの取り組みをやってきたことが、子どもたちの誇りや自信などに繋がればいいと思っています。
釧路で湿地に関する国際会議が開催されたことで、湿原が重要なものであるという意識を初めて持ったという市民も多いと思います。これまで歩んできた歴史に地域の子もたちが触れることで、地域に対する誇りとなり、さらに他の地域の方と交流することで、環境保全への市の取り組みを広げていけることを期待しています。

(質問)

- ・ 給料引き下げ問題について職員組合と交渉しているところですが、妥結に至らなかった場合、市独自で、条例改正案を提案する可能性はあるのか教えてください。

(市長)

- ・ 現在、交渉中ですが、しっかりと市としての考え方を伝えていっているところです。

(質問)

- ・ 岡山県庁が給与削減を組合に提案したという話が出たときに、釧路市としては反対だと以前にお聞きしましたが、その後、どのように変わって組合に給与削減の提案をせざるを得なくなったのかお聞かせください。

(市長)

- 給与を削減するというだけでなく、地方交付税をあのよう形で進めていくことを反対してきました。そこはしっかり見直ししていただきたいと話しています。今も同じ思いで、納得していないところもあります。北海道市長会でも今後このようなことがないようにという意見が出ていますし、全国市長会でも同様です。
しかし、現実的に国の方針が出ていますので、それを受けた中で組合に提案したものです。基本的な考え方は変わっていません。

(質問)

- 今回の給与削減がもし実現できなかった場合、市民サービスへの影響は想定されるのでしょうか。

(市長)

- 市役所というのは、釧路市のことを考え、さまざまな事業を実施していく機関です。さまざまな範囲、分野で市民のみなさんの理解が必要だと思っています。
いまは、しっかりと組合との話し合いを続けていきたいと考えています。